

英語多読を通じた図書館の授業支援と地域貢献

西澤一*¹ 吉岡貴芳*² 伊藤和晃*²
(豊田工業高等専門学校)

Educational Support and Public Service of the College Library through Extensive Reading

Hitoshi NISHIZAWA, Takayoshi YOSHIOKA, Kazuaki ITOH

(Toyota National College of Technology)

The college library has been playing an important role to support extensive reading lessons, which have improved our students' reading and listening skills in English dramatically. It holds a large number of easy-to-read English books in open-shelves, arranges them in the order of easiness for ESL learners, and serves as a comfortable room for extensive reading lessons. After the each lesson, students are encouraged to check out their favorite books for extra reading. After the introduction of extensive reading lessons, the number of checked-out books from the library has tripled.

We have also advertised the library to the public and promoted open introductory lessons of extensive reading. Some local public libraries have also introduced easy-to-read English books. Extensive reading could become a new service of libraries to support the lifelong learning of adult ESL learners in Japan.

KEYWORDS : extensive reading, English education, library, lifelong learning

1. まえがき

豊田高専では、創立以来低迷していた学生の英語運用能力を改善するため、2004年度に大量の多読用英文図書を図書館に導入し、図書館における英語多読授業を開始した。3年間継続の多読授業により、学生の英語運用能力は顕著に向上、英語に対する苦手意識は克服されつつあり、学生の図書館利用も活性化された。

2005年度からは公開講座を通じて英語多読を地域住民に紹介したところ、学外利用者による図書館利用も拡大した。さらに、Webを通じて多読用図書の選書を援助するサービスを提供、地域の公共図書館と連携して、気軽に英語読書を楽しむ新しい生涯学習環境を提供し始めている。

本報では、高専図書館が英語多読を通じて、授業支援と地域貢献の両面で役立っている本校の現状を報告する。

2. 英語多読授業

2.1 英語多読授業とは

豊田高専電気・電子システム工学科（以下、E科と略称）では、2002年度に英語多読授業を導入した¹⁾。授業時間のほとんどを、やさしい英文図書の読書にあて、日本語に翻訳することなく大量の英文を読んでもらう授業である。担当教員の助言下、受講学生は各自の読解力、嗜好に応じて多種多様な本を、授業時間内外に自律的に読み進める。受講生の読書速度が向上し、TOEIC平均点でも

変化を確認できる読書量の閾値を 30 万語と見積もっている²⁾。

これまでに、複数の高専が英語多読を導入・実践しているが^{3)~6)}、同一学生が複数年継続して受講する多読授業の実践報告はまだ少なく⁷⁾、また、多読による図書館利用の活性化と地域貢献に関する報告はない。

2. 2 多読授業継続 3 年目の状況

本校E科では、2004 年度に多読授業の対象学年を本科 2 年～専攻科 2 年の 6 学年に拡大した (表 1)。多読授業の効果 (多読有無の比較, 読書量の影響, 2 年間継続の効果) については前報²⁾で報告しているので、本報では多読授業 2 年目から 3 年目への変化と 30 万語の効果を中心に報告する。

表 1 E 科多読授業の継続状況

年度	2 年	3 年	4 年	5 年	専 1	専 2
2003	—	多読前	—	1 年目	(1 年*)	多読前
2004	1 年目				2 年目	2 年目*
2005	1 年目	2 年目				3 年目
2006	1 年目	2 年目	3 年目			

—は図 2 で TOEIC データなし (多読前)、

* は 2002 年度 5 年で多読授業受講

2006 年度の本科 4, 5 年と専攻科 1, 2 年の 86 人は、3 年間で累積読書量 (中央値) 44.9 万語のやさしい英文図書を読んだ (図 1 下)。

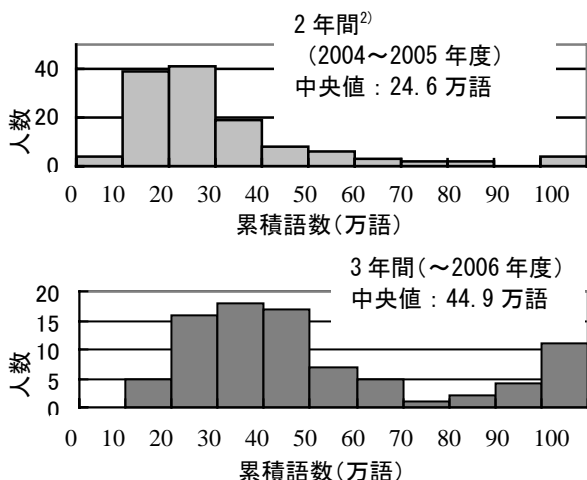


図 1 3 年間継続受講学生の累積読書量分布

このうち 65 人 (76%) が、前報の閾値 (30 万語)

以上を読破しており、30 万語の効果を確認できる。

2 年目に大量の脱落者が出た音読・筆写⁸⁾と異なり、多読授業では 2, 3 年目の脱落者も少ない。授業時間外にも意欲的に読み、90 万語以上読んだ学生も 15 人 (17%) いる。

2003~2006 年度の E 科学生の学年別 TOEIC (年間ベスト) 平均点推移を示す (図 2)。

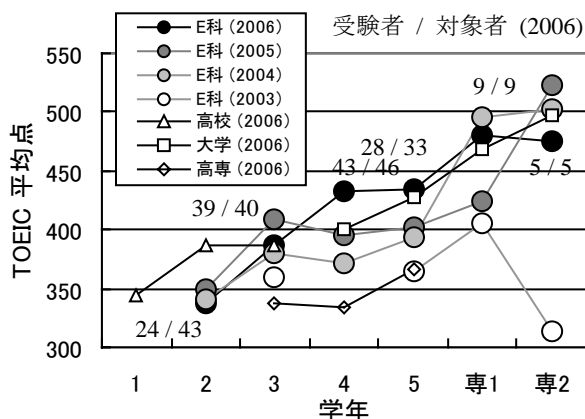


図 2 学年別 TOEIC 平均点 (2003~2006 年度)

E 科得点は、複数回受験した場合は最高点 (年間自己ベスト, 専 2 は 2 年間の自己ベスト)。公開受験, 団体受験区別なし。E 科データからは、外国人留学生, 英語圏への留学経験者 (2006 年は、2 年 3 名, 3 年 2 名, 4 年 2 名, 5 年 7 名, 専 1 年 1 名) を除外。高校, 大学, 高専データは、TOEIC テスト 2006 DATA & ANALYSIS⁹⁾ による。

本校では 2004 年度に本科 4 年～専攻科 2 年の英語授業時間数を一斉に増し、(E 科では) TOEIC 450 点を専攻科 (JABEE プログラム) 修了要件に設定した。これら外部要因の影響を避けるため、専攻科は以下の分析から除外する。2004 年度の 5 年生 (4 年次の英語授業が 2 単位少ない) を除き、2004~2006 年度の本科生は、多読授業年数以外の要因が同じである (同学年では年度による差は無い)。

本科 2 年生 (2004~2006 年) では、TOEIC 平均点が 350 点以下で、高校 2 年平均より低い状態が 3 年間続いており、多読 1 年目を含めた授業改善の効果は表出していない。3 年生では、多読前 (2003 年) から多読 2 年目 (2005, 2006 年) へと TOEIC 平均点が上昇し、高校 3 年平均並みで飽和している。また、4, 5 年生では、多読 1 年目 (2003 年の 5 年と 2004 年の 4, 5 年) から 2 年目 (2005 年の 4, 5 年 76 人平均 399 点), 3 年目 (2006 年の 4, 5 年 71 人平均 433 点) まで TOEIC 平均点が上昇し、同年代の (文系を含む) 大学生平均以上になっている。

多読2年目(2005年の3~5年)と3年目(2006年の4,5年)の5クラスをみると,学年間の得点差は小さく,多読授業受講年数(による読書量)の得点差が支配的である。2006年の4,5年のTOEIC平均点は,多読3年目までに大半の学生がやさしい英文を30万語以上読んだ結果と判断できる。

3. 図書館の授業支援

3.1 多読授業における図書館の役割

大量の英文図書を用いる多読授業を複数のクラスで行うために,多読用図書は図書館に集めた(図3,2007年3月の時点で7,000冊)。複数の多読授業が重ならないよう時間割を組み,多読授業1年目に最も使用頻度の高くなる,中学校の教科書程度のやさしい英文図書(読みやすさレベル:YL¹⁰ 0.8未満)は,館内閲覧専用(貸出禁止)としている。読みやすさレベルと英文の長さ(語数)を記したシールを全図書の裏表紙に貼り,図書を読みやすさ順に配置することで,学生の選書を容易にしている。



図3 高専図書館の英語多読用書架(の一部)

授業中の学生は,館内のブラウジングスペース,自習用スペースを用いて自律的に英文読書を行う。着席位置は図書館内全体に散らばるが,多読授業中に図書館を頻繁に利用する他の科目はないため,支障はない。担当教員の役割が,知識伝達から,(個別)読書相談と環境整備へと,大きく変化することは,既に述べた通りである^{1,2)}。

3.2 学生の図書館利用の活性化

多読授業では,やさしくて短い本を授業時間内に読み,やや長めの本を借りて授業時間外に読むよう指導しているため,2004年度以降は,E科学生の(多読用図書が属する)「言語」の館外貸出し冊数が急増している(図4)。

全学科共通の「英語講読I~IV」(本科1~4年)でも英語多読を紹介し,年に数回,授業時間の一部を多読に充て,多読を課題としているため,E科以外の学生による「言語」の貸出冊数も徐々に増えてきた。英語多読が学内の文化として浸透しつつある。これらの結果,2006年度の館外貸出冊数は多読導入前の2002年度の約3倍となった。

「言語」以外の館外貸出冊数でも長期低落傾向に歯止めがかかっている。例えば,2006年度のE科学生の貸出冊数は(多読図書導入前の)2000~2002年度平均より,理系分野で2割,文系分野でも1割多く(図5),多読授業で来館した学生が,多読用以外の図書も利用していることが分かる。

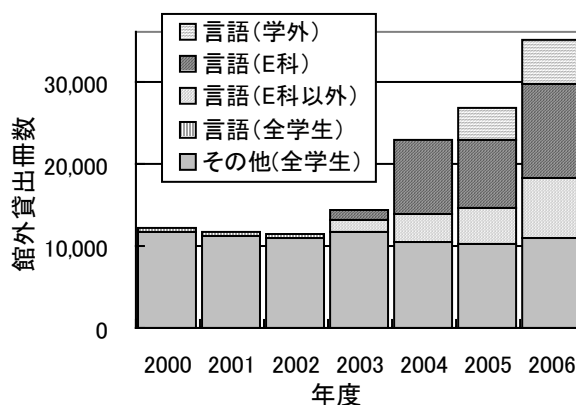


図4 図書館館外貸出冊数の経年変化

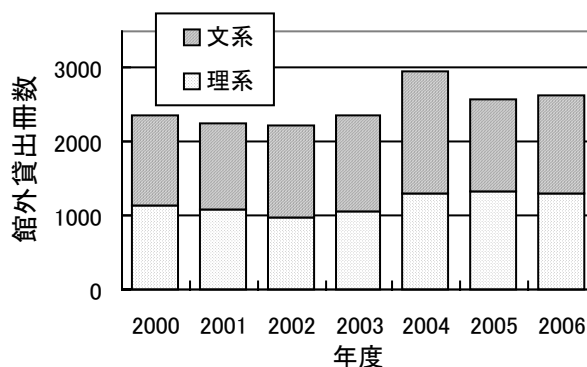


図5 E科学生の分野別館外貸出冊数の経年変化(言語以外) 理系:総記,自然科学,技術,産業 文系:哲学,歴史,社会科学,芸術,文学

3. 3 学外利用者の図書館利用の増加

多読用図書の導入により、学外の図書館入館者数も増えている(図6)。統計を取り始めた2003～2004年度は年間500人以下であった学外入館者数が、多読の公開講座を始めた2005年度以降、顕著に増加し、2006年度は1,933人と4倍になった。2005年度以降、土曜日の館外貸出冊数は急増し、夜間の館外貸出冊数も増えており(図7)、学外者利用の影響が大きいものと考えている。

学外利用者の館外貸出は「言語」に集中しており、2006年度には学外者による「言語」館外貸出冊数が5,299冊と全貸出冊数の15%を占めた(図4)。英文多読用図書を豊富に収蔵する図書館が少ないためか、市外からの利用者も少なくない。

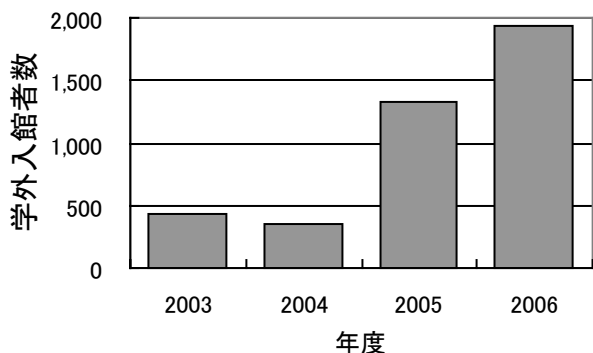


図6 学外入館者数の経年変化

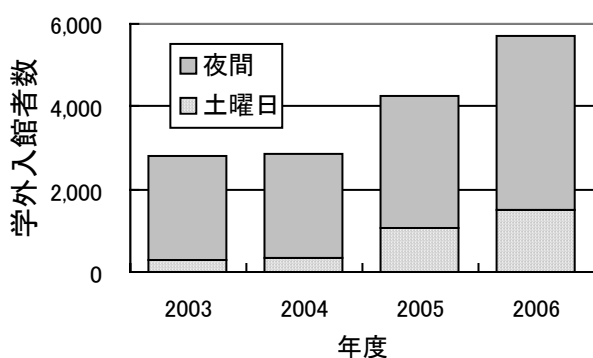


図7 土曜日、夜間館外貸出冊数の経年変化

この結果、近頃は学外入館者のない日は珍しい状態となっている。授業時間にも学外利用者が多読用図書を探している姿が散見され、学生の学習意欲向上にも役立つのではと、期待している。

4. 英語多読による地域貢献

4. 1 公開講座の実施

2005年度以降、英語多読を主題とした公開講座を年2回実施している(表2)。平日開催(8月)講座の受講者は中学生が多いが、週末開催(10月)講座は、社会人・一般が受講者の大部分を占めた。

表2 英語多読関連の公開講座実施状況

年月	場所	実施日	参加数	備考
2005 8月	高専	平日3日	15(7)	
10月	豊田市施設	週末2日	33(0)	共催
2006 8月	高専	平日3日	8(8)	
10月	豊田図書館	週末2日	28(2)	共催
2007 8月	豊橋図書館	週末2日	21(9)	
10月	豊田図書館	週末2日		共催

参加者(内数)は小中学生、共催は豊田市との共催

中学生が数日間の体験講座で英文を読める感覚を掴むことは難しく、多読指導が中学校における英語教育と大きく異なるためか、中学生へのインパクトは比較的弱いように感じる。

他方、社会人受講者は、仕事または趣味で英語利用の必要性が高い、他の学習法で挫折し実効ある学習法を探している、英語多読を知っている(が体験の機会がなかった)等の理由から、講座に対する期待も高い。自らの英語学習体験と照らし合わせて多読の考え方に賛同を得られる場合が多く、中には講座期間中に多読の効果を実感できる受講者もいる。講座後に本校図書館に利用登録し、英語多読を継続している受講者も少なくない。

受講後のアンケートによれば、英語多読の公開講座は、他の講座に比べても、理解度、満足度とも高評価である(表3)。

表3 受講者による公開講座の評価(2006年度)

	IT	教養	英会話	多読8月	多読10月
理解度	3.46	3.40	2.91	3.60	3.58
満足度	3.23	2.73	2.74	3.40	3.31
回答数	13	15	23	5	26

理解度、満足度は、0～4の5段階評価、数値大ほど高評価

このような状況から、今後の英語多読の公開講座は、社会人を主対象とし、本校図書館の学外利用者のサポートを兼ねながら、地域の生涯学習を

支援する形へと発展させるのが妥当と考えている。

4. 2 学外利用者向けサービス

公開講座をきっかけに、本校図書館の多読用英文図書は利用者が急増しているが、公開講座を受講せずに利用を始めた学外者の中には（日本語に翻訳せずに英文を直接理解することを目指す）、多読の方法を十分に理解していないケースも見受けられる。そこで、公開講座の宣伝を兼ね、本校図書館の学外利用者向けに英語多読体験会（無償）を2005～2006年度の（公開講座を行わない）秋から冬の土曜日に4回実施した。毎回、約15～25名の参加があった。

また、図書館利用者が、読みたい英文図書の英文のやさしさ、長さやジャンルを、端末画面上のフォームに入力すると、条件に最も近い推薦図書のリストを表示する選書システムを構築し、インターネット上で公開し始めた（図8）^{11,12)}。同システムは携帯電話からもアクセス可能であるため、相談者のいない学外利用者が本校図書館、地域の図書館等で図書選択する際にも役立つものと期待している。



お薦め図書

入力データ 語数2000. YL1.2.

Series	Title	ジャンル	YL	語数	お薦め度	JSDN
MNW2	Double Danger	CS	1.2	1000	☆☆☆☆☆	0435277243
MGR2	Picture Puzzle	CS	1.2	2500	☆☆☆☆	0333956461
PGR1	Marcel and the Shakespeare Letters	MY	1.0	2100	☆☆☆☆	0582427681
MNW2	Karateka	CS	1.2	1000	☆☆☆☆	0435277251
PGR1	Brown Eyes	MY	1.0	1500	☆☆☆☆	0582417708
PGR1	Missing Coins, The	MY	1.0	1300	☆☆☆☆	0582427665
PGR1	Wrong Man, The (Cartoon Strip)	CS	1.0	1200	☆☆☆☆	0582427754
PGR1	Marcel Goes to Hollywood	MY	1.0	700	☆☆☆☆	0582427770
MNW1	Bookshop Trick	CS	0.9	650	☆☆☆☆	0435277006
MGR2	Money for A Motorbike	CS	1.2	2000	☆☆☆☆	043527195

印刷

図8 多読用図書選書システム¹²⁾の出力リスト

4. 3 地域図書館との連携

特別貸出制度（10冊まで）を利用して、長期休暇中に多読用図書が不足する本校学生に便宜を図ることも考慮し、地域の図書館にも多読用英文図書の導入を積極的に働きかけてきた。

その中で、蒲郡市立図書館（愛知県）では、英文多読コーナーを新設し、2005年度からサービスを始めている（図9）¹³⁾。同コーナーは、専用書

架と数人分の椅子机を設置しており、1冊を数分で読み終わるやさしい英文図書を、腰を落ち着けて読むことができるよう配慮している。筆者の一人が年10回程度の読書相談会を行い、利用者へ便宜を図っている。



図9 蒲郡市立図書館の英文多読コーナー

多読コーナー設置後、市民から200冊以上の寄贈もあり、2007年3月31日現在、同図書館の英文多読用図書は2,131冊まで増加、人口8万人の地方都市としては充実した図書構成となっている。多読用図書の年間貸出数（2006年9月～2007年8月）は4,999冊で、多読コーナー設置前の2004年度に館外貸出された「言語」の3,273冊よりも多く、市民に利用され始めていると言える。

2007年度には、豊田市中央図書館が830冊の多読用図書を新規導入した。同図書館が所蔵する14,000冊の英文図書（一般小説と絵本中心）の利用活性化を期待してのサービス開始である。多読で英文読解力を向上させた市民が、将来英文一般小説も利用し、既存英文図書の利用も活性化されると期待している。図書選定には本校も協力しており、今後も継続支援する予定である。

その他にも、愛知県下では2005～2007年度にかけて、小牧市立図書館¹⁴⁾、一宮市立豊島図書館、愛知県図書館、豊橋技科大学図書館、名古屋大学図書館が数百冊以上の多読用図書を導入しており、地域住民が手軽に英語多読を始めることのできる環境が徐々に整い始めている。また、本校図書館の取り組みは、地域の図書館にも紹介され^{15),16)}、本校図書館の特色として認知されつつある。

5. 考察

当初、英語に苦手意識を持つ本校学生の英語運用能力向上策として導入した英語多読授業は、前報²⁾で2年間の継続授業の効果を報告してから1年が経過した。その後も同授業を受講し、3年間継続した高学年学生は累積読書量を増し、英語運用能力も向上させている。多読授業用として7,000冊の多読用図書を導入したことの対費用効果は、LL教室、e-Learningシステムより高い可能性もある。

授業実践面では、基本的には自律的な活動である読書を授業時間内に行うことが有効であること、担当教員の役割は読書環境の整備と読書相談が中心となることも、再確認した。

他方、同授業を滞りなく進めるために必要とされる大量(多種多様)のやさしい英文図書は、日々進歩する学生個人の側から見ると利用時期が限定されるため、学外(地域社会)に利用を開放することも可能であると判断した。地域の図書館に収蔵されていないユニークな図書と、授業実践を通して確立した多読指導法を、地域に還元することで、高専が地域社会の生涯学習に貢献できると考えている。

英語多読授業は、従来の学校英語教育の手法との違いが大きいため、公立高等学校での本格的な導入は難しいようであり、高専英語教育の特長として地域社会にアピールできる可能性がある。さらに、高専図書館の学外利用および地域図書館との連携は、高専の存在を地域社会に広報する一つの切り口ともなろう。

5. あとがき

本校で始まった英語多読授業は、英語に苦手意識を持つ高専生の英語運用能力改善に顕著な効果があることが分ただけでなく、図書館の多読用図書利用を通じて、地域住民の生涯学習に対し新しい教育サービスを提供できる可能性も見えてきた。今後は、英語多読が、高専英語教育の特長として広く活用されるようになることを期待する。ロボコン以外では、なかなか一般市民の知名度が上がらない高専の存在を、新しいサービスを通じて知らしめることができれば、長期的には高専志望者増加にも貢献できるのではないかと。

参考文献

- 1) 吉岡, 西澤: 理系クラスでの多読授業, 英語教育 2月号, pp. 18-20 (2004)
- 2) 西澤, 吉岡, 伊藤: 苦手意識を自信に変える, 英語多読授業の効果, 高専教育 30号, pp. 439-440 (2007)
- 3) 堀, 竹田: 英文多読に関する一考察: 英語教育のパラダイムシフト, 高専教育 28号, pp. 351-356 (2005)
- 4) 佐藤: 「SSS 英語学習法」による自律的英語学習支援の試み, H16 年度高専教育講演論文集, pp. 71-72 (2004)
- 5) 吉野: 高専生の英語多読指導実践, 長野高専紀要 38号, pp. 141-148 (2004)
- 6) 竹村: 函館高専に於ける英語多読指導の試み, 函館高専紀要 40号, pp. 83-88 (2005)
- 7) 青木他: 英語多読・多聴教育2年目を終えて, 高専教育 30号, pp. 445-450 (2007)
- 8) 西澤, 吉岡, 杉浦: インプット重視の英語自習支援, その効果と限界, 高専教育 28号, pp. 523-528 (2005)
- 9) 財) 国際ビジネスコミュニケーション協会: TOEIC DATA & Analysis 2006, p9 (2007)
- 10) 古川他: めざせ1000万語英語多読完全ガイドブック, コスモピア (2005)
- 11) Furukawa et al: SSS Website: An Online Community which Supports Successful Extensive Reading for Learning English, proc. WBE07, pp.449-454 (2007)
- 12) <http://orchard.ee.toyota-ct.ac.jp/hmlab/>
- 13) <http://www.city.gamagori.aichi.jp/toshokan/tadoku/>
- 14) 玉置: 小牧市立図書館の多言語図書と英語多読図書について, 愛知図書館協会会報 178号, pp. 3-4 (2006)
- 15) 西澤: 英語多読と図書館の役割, 可能性, 愛知図書館協会会報 178号, pp. 5-6 (2006)
- 16) 西澤: 図書館の教育支援, 地域貢献: 豊田高専の英語多読を通して, 東海地区大学図書館協議会誌 52号, pp. 65-68 (2007)